

船舶事故調査報告書

平成25年5月30日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	火災
発生日時	平成25年1月9日 14時25分ごろ
発生場所	神奈川県横須賀市猿島南方沖 横須賀市所在の横須賀港平成2号防波堤北灯台から真方位053° 830m付近 (概位 北緯35°16.7′ 東経139°41.7′)
事故調査の経過	平成25年1月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第八 ^{とみ} 富丸、4.83トン KN3-12893（漁船登録番号）、個人所有 9.80m(Lr)×2.74m×0.80m、FRP ディーゼル機関、51.49kW、昭和49年12月14日
乗組員等に関する情報	船長 男性 68歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年8月13日 免状証交付日 平成22年10月27日 (平成28年9月7日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	機関室及び操舵室焼損（全損処理された。）
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、横須賀市観音埼沖において、さより引網漁を終え、僚船と共に猿島南方沖を横須賀市新安浦港に向けて西進中、平成25年1月9日14時25分ごろ機関室囲いの上部蓋から黒煙が上がった。 本船は、左舷側に僚船が横着けし、船長が僚船の散水ホースを使用して消火活動を行った。また、新安浦港に近かったことから、新安浦港に停泊中の漁船も駆けつけて消火活動を行った。 本船は、僚船にえい航されて新安浦港に入港し、消防によって鎮火が確認された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏
その他の事項	本船は、船体のほぼ中央の甲板下に機関室が配置され、その後方に

	<p>バッテリーが置かれ、機関室の後方の甲板上に操舵室が設けられていた。</p> <p>機関室は、機関室囲いで覆われており、機関室囲いの右舷船尾寄りに縦約50cm、横約40cmの蓋があり、本事故当時、蓋は開けられていた。また、機関室のほぼ中央に主機が据え付けられ、機関室左舷船尾側に燃料タンクが、機関室後方の壁にメインスイッチが、右舷船首寄りの壁にブレーカー類がそれぞれ取り付けられていたが、右舷船首のブレーカー類は、常時、入ったままであった。</p> <p>右舷船首寄りのブレーカー類は、照明関係等に使用されていたと考えられるが、本事故により、電気配線が断線していた。</p> <p>本船は、本事故により、機関室及び操舵室が焼けたが、特に機関室右舷前方のスイッチ類周辺から右舷側及び右舷後方に向かって焼け方が激しかった。</p> <p>本船は、10年程前、船長が購入した漁船であり、購入以降、電気機器の取替えを行っていたが、電気配線の点検を行っていなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 あり なし</p> <p>本船は、猿島南方沖を新安浦港に向けて西進中、機関室右舷船首寄りに取り付けられたブレーカーの配線が短絡して発火したか、又は電気配線内で漏電して発熱したことから、周囲の可燃物に着火して燃え広がったことにより発生した可能性があると考えられる。</p> <p>機関室右舷船首寄りに取り付けられたブレーカーの給電先については、配線が断線しており、明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、猿島南方沖を新安浦港に向けて西進中、機関室右舷船首寄りに取り付けられたブレーカーの配線が短絡して発火したか、又は電気配線内で漏電して発熱したため、周囲の可燃物に着火して燃え広がったことにより発生した可能性があると考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関室の電気配線の点検を定期的に行うこと。